

相生デイビス新聞

発行所
相生DS
44-4165



床屋
さん
5(火)
14(木)
27(水)

子モアくらぶ

月もおぼろとなり
不順な天候が続きます。
花咲く頃のこれ自然でしうか。
かすむ山なみ。ぬるむ流氷。

月もおぼろとなり、
味わい深い
春の夜です。

名詩

高原の三月、
早春のさすらいの
哀愁もまた歌となる
さびしくて
自由な私の道が。
尾崎喜八



秋間梅林

味



山菜の王者 ツクシ

思い出
写真館
昭28年



熊谷元(コッペンをかじる)

旅



島原鉄道

桜の木に虫がついた。
伐採が決った。
おそかった。
虫は娘にもついたのでした。

色が表わしているもの

ひし餅

紅... 桃の花
 魔よけ
白... 雪、清浄
緑... 芽、健康

さくらもち
こんな話

江戸向島
長命寺の門番
新六が考案したか。
(1720年頃)

? どんな言葉が
入りますか

() 暁を覚えず

() 一刻値千金



桃屋

昭33年

こんな
コマリヤル
ありました。
何はなくとも
江戸もさき

天声珍語
内容はとちかく
形の上では
まあ、
親としての
責任は果た
したつもりだ。
今の思いを
最後にする。
健康にな。
家族仲よく
もう心配は
すまい。
明日からは
お母さんと
ふたりだけの
くらしを
楽しみにする
心配するな。
父
この短い手紙を
子供たちに
送るべきか
今も迷っている。
お母さんは言う
「自然と離れ
ていきますよ、
それぞ水の
人生ですもの」
ススム